令和３年度　数学科　授業改善推進プラン

大田区立御園中学校

１　昨年度の授業改善推進プランの検証

（１）　成果

・整数の性質や文字と式など中学校で学習した内容は目標値に近い数値またはそれを上回る数値となっており、中学校の学習の成果が感じられる。（第１学年）

・

・式の計算や図形の領域などは目標値を越える内容が多く、基礎・基本の定着が見られ、ワークやステップ学習など、繰り返し学習を重ねた成果が感じられる。（第３学年）

（２）　課題

・小数や分数の計算に苦手意識のある生徒が多く、結果も目標点より７点ほど下回っている。（第１学年）

・比例・反比例のグラフから式を読み取る、式からグラフを書く能力などが低い。（第２学年）

・１次関数の内容が全体的に低く、グラフを書いたり、式を求めたりすることが課題。（第３学年）

２　大田区学習効果測定の結果分析

（１）　達成率（経年比較）

	令和３年度結果	令和２年度結果	令和元年度結果
第１学年	活用は目標値を上回ったが、基礎は目標値に届かなかった。		
第２学年	基礎・活用ともに目標値を上回ることができた。	（第１学年時）	
第３学年	基礎・活用ともに目標値を上回ることができた。	（第２学年時）	（第１学年時）

（２）　分析（観点別）

①　第１学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・目標点と比べ、３クラス中２クラスの平均が下回っており、理解が不十分だといえる。 ・特に小数の乗法や分数の除法、求積問題を苦手としている生徒が多い。	・目標点と比べ、３クラス中２クラスの平均が下回っており、理解が不十分だといえる。 ・特に比の計算を苦手としている生徒が多い。	・目標点と比べ、３クラス中２クラスの平均が下回っており、理解が不十分だといえる。 ・特に合同な図形の単元を苦手としている生徒が多い。

② 第２学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を上回っており、基礎の定着ははかれている。 負の分数、負の整数の大小比較、比例・反比例の式やグラフについての理解ができていない生徒が若干多くみられる。	目標値を上回っており、基本的な部分の定着は、はかれている。 問題文の条件にあうグラフを選んだり、資料の活用において正しく読み取ったり、説明することが苦手な傾向がみられる。	目標値を上回っており、基本な主体的に学習に取り組む態度は身についていると考えられる。

③ 第３学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
３クラスとも目標値を上回っており、基礎の定着は、はかれている。 既習事項の定着も見られてきた。	３クラスとも目標値に近い値、または上回っており、基本的な部分の定着は、はかれている。	３クラスとも目標値を上回っており、基礎の定着は、はかれている。

３ 授業改善のポイント（観点別）

（1）第１学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
小数や分数などが含まれる基本的な計算について、苦手意識のある生徒が多いので計算方法の復習や、計算の練習を積ませることで定着させていく。	比の扱いに慣れていない生徒が多いので、比例式の学習や比例反比例の学習と合わせて復習を行い、定着をはかる。	図形などの、日常生活との関連性に気づきにくい単元に苦手が見られるため、日頃の授業で日常の生活に関連づけた題材を扱い、意欲をかき立てていく。

（2）第２学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 次関数の学習の中で、比例・反比例の復習をし基礎の定着をはかる。プリントやタブレット学習を用いて、より一層の能力の伸長をはかる。	習熟度別少人数学習を活かし、習熟度に応じた適切な問題を選び、生徒の様子を見ながら細かく指導していく。	基礎・基本の定着をはかり、小テスト等を行うことで、自分の苦手な部分を理解し、克服していくことで、意欲的に学習に取り組ませる。

（3）第３学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ステップ学習や単元プリントを用いて、問題数を多く解くことにより、基礎基本の定着をより一層はかっていく。	習熟度別少人数学習を活かし、習熟度に応じた適切な問題を選び、生徒の様子を見ながら細かく指導していく。	基礎・基本の定着をはかり、単元テスト等を定期的に行うことで、苦手な部分を理解し、克服していくことで、意欲的に学習に取り組ませる。